

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	健康科学大学
設置者名	学校法人 健康科学大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
健康科学部	理学療法学科	夜・通信	—	55	50	105	13	
	作業療法学科	夜・通信		59	70	129	13	
	福祉心理学科	夜・通信		49	94	143	13	
看護学部	看護学科	夜・通信		—	45	45	13	
(備考) ※健康科学部共通科目については、学科ごとに担当教員が違う科目は実務経験のある教員が担当する学科のみカウントしている。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

シラバスに記載し、大学ホームページにて公表している。 http://www.kenkoudai.ac.jp/modules/about/index.php?content_id=71

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	健康科学大学
設置者名	学校法人健康科学大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人ホームページにて公表 ホームページアドレス http://www.gakukendai.ac.jp/about/22/
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	2018. 4. 1～ 2021. 3. 31	経営全般の企画
非常勤	団体役員	2018. 4. 1～ 2021. 3. 31	組織運営体制の 管理
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	健康科学大学
設置者名	学校法人 健康科学大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>・授業計画(シラバス)の作成過程</p> <p>学内ファカルティ・ディベロップメント委員会(以下、「FD委員会」)により、シラバス様式および作成要領が整備されるとともに、シラバス作成に伴う説明会が実施され、各担当教員によりシラバスの作成が図られる。各授業科目担当教員により作成・提出されたシラバスは、学内第三者からなる「シラバスチェック担当者」により、以下の観点から内容のチェックを行い、必要に応じ修正が行われる。また、これら作成作業と並行して、FD委員会による作成の進捗状況管理が行われる。</p> <p>a カリキュラムポリシーに基づき作成されているか b 各種養成学校指定申請内容に基づき作成されているか c 作成要領に沿って作成されているか</p> <p>これらの過程を経て、最終的に学長の決裁のうえ、学生等に対し公表する。</p> <p>・授業計画の作成・公表時期</p> <p>① FD委員会による様式・作成要領の整備(11月中旬まで) ② FD委員会による作成に伴う説明会実施および様式・作成要領の配布(11月中旬) ③ 各授業担当教員によるシラバス原稿の提出(11月中旬から12月下旬まで) ④ シラバスチェック担当者による提出されたシラバス原稿のチェック(1月上旬から2月下旬) ⑤ 完成(学長決裁)(3月) ⑥ 公表(4月初旬)</p>	
授業計画書の公表方法	<p>大学ホームページにて公表</p> <p>http://www.kenkoudai.ac.jp/modules/about/index.php?content_id=71</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

単位の授与および成績評価方法・基準は、以下のとおり規定されている。

〈単位の授与〉

・学則第 15 条

授業科目の単位は、当該授業科目を履修しその試験に合格した者又は試験に代わる適切な方法を経て合格基準を満たした者に対して授与する。

・健康科学部履修規程第 29 条及び看護学部履修規程第 29 条

授業科目の単位は、当該授業科目を履修しその試験に合格した者又は試験に代わる適切な方法を経て合格基準を満たした者に対して授与する。

〈成績評価方法・基準〉

・学則第 16 条

学習の評価は、S、A、B、C、Dをもって表し、S、A、B、Cを合格としDを不合格とする。

・健康科学部履修規程第 30 条第 1 項

授業科目の成績は、試験等の成績のほか平常における成績等を総合的に判断し、次表に掲げる基準により評価する。

総合点	評価記号	合否
90 点～100 点	S	合格
80 点～89 点	A	合格
70 点～79 点	B	合格
60 点～69 点	C	合格
0 点～59 点	D	不合格

・看護学部履修規程第 30 条第 1 項

学生の成績は、シラバス等で示された授業の到達目標に対する学生の学習到達度に基づき、次表に掲げる基準により評価する。

判定	合格				不合格
	S	A	B	C	D
評価					
評点	100～90 点	89～80 点	79～70 点	69～60 点	59～0 点
学習到達度との関係	学習到達度が特に優秀な水準で目標に到達している。	学習到達度が優秀な水準で目標に到達している。	学習到達度が良好な水準で目標に到達している。	学習到達度が目標に到達している。	学習到達度が目標に到達していない。

各授業科目の担当教員は、当該授業科目の試験等による達成度評価を上記規定に則して成績評価および単位授与を行っており、各授業科目の評価方法はシラバスに明記するとともに、これを通じてあらかじめ学生に対して周知を行っている。また、試験の実施においては、「試験規程」を定め公正公平に運営している。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

・GPA等の客観的な指標の具体的な内容

成績評価に対する客観的指標として、全学でGPA制度を導入しており、各学部履修規程においても定めている。具体的には、成績評価に対応する点数(以下「GP」)を設定し、授業科目のGPの平均値(GPA)を算出して学修の状況及び成果を示している。

各学部の成績評価に対応するGP及びGPA計算式は、次のとおり。

《健康科学部》

評価	S	A	B	C	D
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0

$$\text{GPA} = \frac{\text{(履修登録した科目数} \times \text{当該科目のGP)の合計}}{\text{履修登録した科目数の合計(不合格科目を含む)}}$$

※計算値は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位まで算出する。

※GPAの計算に含めない授業科目は以下のとおりとする。

- (1) 履修を放棄した科目「K」
- (2) 他大学等において修得した「認定」科目
- (3) 不合格科目を再履修し、合格となった場合の再履修前の不合格科目

《看護学部》

判定	合格				不合格	放棄
評価記号	S	A	B	C	D	K
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0	0.0

$$\text{GPA} = \frac{(4.0 \times \text{Sの総修得単位数}) + (3.0 \times \text{Aの総修得単位数}) + (2.0 \times \text{Bの総修得単位数}) + (1.0 \times \text{Cの総修得単位数})}{\text{履修登録した全授業科目の総単位数}}$$

※計算値は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位まで算出する。

※「履修放棄」となった授業科目は計算に含め、「履修取消」した授業科目は計算から除外する。

・客観的な指標の適切な実施状況

各学部で規定するGPA制度に基づき、導入している成績管理システムにGPA算出方法を登録し、成績入力からの自動計算により適切に管理運営されている。

客観的な指標の算出方法の公表方法	学内で配布している学生便覧にて公表。 ※HP等には掲載していないが求めに応じて学外者にも配布している。
------------------	--

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

・ 卒業の認定に関する方針の具体的な内容

全学および各学科において卒業認定・学位授与方針（ディプロマポリシー）を次のとおり定めている。

〈全学〉

健康科学大学では、関連領域の専門家とともに新たな実践を創造し、地域の医療・保健・福祉に貢献できる優れた人材を社会に送り出すため、次のような資質と能力を備えた学生に学位を授与する。

- (1) 生命に対する深い理解や人権の尊重に立脚した高い倫理性と豊かな人間性を身につけている。
- (2) 多彩な科目の履修を通じて、幅広い教養と専門的な知識・技術力を身につけている。
- (3) 医療・保健・福祉の関連職種と連携して実践できる能力を身につけている。
- (4) 一人の社会人・職業人として様々な課題に適切に対応できる社会人基礎力（ジェネリックスキル）を身につけている。
- (5) 社会の変化や技術の進展に的確に対応するために自己研鑽できる能力を備えている。

〈理学療法学科〉

- (1) 理学療法士に必要な知識と技能を修得している。
- (2) 広い視野と未知への探求心を身につけている。
- (3) 高い倫理観と責任感、患者に対する思いやりと奉仕の精神を身につけている。
- (4) チーム医療に必要なコミュニケーション能力と協調性を身につけている。
- (5) 根拠に基づいた医療の実践に必要な論理的思考力を修得している。
- (6) 自ら問題を提起し、解決する力を身につけている。

〈作業療法学科〉

- (1) 生命と人権の尊重を基本とした、豊かな人間性と高い倫理性を身につけている。
- (2) 幅広い教養と作業療法学の基本的知識と技能を身につけている。
- (3) 関係職種と連携できる実践能力を身につけている。

〈福祉心理学科〉

豊かな人間観をもち、一人ひとりの尊厳を高められるような関わりができるとともに、人と人をつなぎ、共に社会を作ることができる力量を身につけている。

● 社会福祉・精神保健福祉コース

ソーシャルワーカーとして必要な理論、知識、技術を総合的に理解し、福祉サービス利用者の立場に立った視点、援助スキルを修得している。

● 発達臨床心理コース

生涯発達に課題や困難を抱える人々が生きやすい人間社会の構築に寄与できる、心理学の高度な専門知識と技術を修得している。

〈看護学科〉

- (1) 社会や人間・自然に関する知識と理解をもち、人の尊厳と生命を尊重する倫理性を身につけている。
- (2) 社会生活と職業生活に必要な汎用的技能と態度・志向性をもち、問題解決のため、相手の立場を共感的に理解できるコミュニケーション能力を身につけている。
- (3) 看護理論に基づいて看護過程が展開できる能力を修得している。
- (4) 人々の健康と生活の質を高める看護実践ができる基礎的能力を修得している。
- (5) 保健医療福祉分野において、関係する人々と連携し、問題解決できる基礎的能力を身につけている。
- (6) 看護専門職者として継続して学習・研究できる基礎的資質と能力を有し、看護専門職の価値観・専門性を生涯にわたり発展させようとする意欲をもっている。

また、卒業に関する要件を、学則に次のとおり定めている。

〈学則第 20 条〉

卒業の要件は、次の各号に掲げるとおりとし、その全てを満たさなければならない。

- (1) 休学期間を除き 4 年以上の在学年数を経ていること。
- (2) 教育課程の所要単位を修めていること。
- (3) 納入すべき学費が全て完納されていること。

※上記第 2 号に規定する「教育課程の所要単位」は、各学部履修規程に別途規定されている。

・ 卒業の認定に関する方針の適切な実施状況

卒業の認定は、各学科において各学生の卒業に係る要件の充足を確認し、当要件を全て満たしている者に対し、各学部教授会の意見を聴いて学長がこれを行う。

なお、授業科目ごと、ディプロマポリシーとの関連性を明記したうえでの学習到達目標を設定することで、教育課程の卒業所要単位の修得をもって学生が身に付けるべき資質および能力の確認を図っている

卒業の認定に関する 方針の公表方法	学生便覧及び大学ホームページにて公表 http://www.kenkoudai.ac.jp/modules/about/ index.php?content_id=24
----------------------	--

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	健康科学大学
設置者名	学校法人健康科学大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.gakukendai.ac.jp/data/16/ 、後援会だより
収支計算書又は損益計算書	http://www.gakukendai.ac.jp/data/16/ 、後援会だより
財産目録	http://www.gakukendai.ac.jp/data/16/
事業報告書	http://www.gakukendai.ac.jp/data/16/
監事による監査報告(書)	http://www.gakukendai.ac.jp/data/16/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 大学ホームページで公表。 http://www.kenkoudai.ac.jp/modules/about/index.php?content_id=22

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 大学ホームページで公表。 http://www.kenkoudai.ac.jp/modules/about/index.php?content_id=22

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 健康科学部・看護学部
教育研究上の目的（公表方法：学生便覧及び大学ホームページにて公表） http://www.kenkoudai.ac.jp/modules/about/index.php?content_id=5
（概要） 本学の使命・目的等については、「健康科学大学学則」第 1 条に「健康科学大学（以下『本学』という。）は、教育基本法及び学校教育法の精神に則り、本学創立の精神に基づく人間教育を行い、広い教養と実務的な専門知識を授けるとともに、旺盛なる自主の精神と強い責任感を涵養して、文化の向上と医療及び福祉の進歩に寄与し得る有為な人材を育成することを目的とする。」と規定されている。
卒業の認定に関する方針（公表方法：学生便覧及び大学ホームページにて公表） http://www.kenkoudai.ac.jp/modules/about/index.php?content_id=24
（概要） 〈全学ディプロマポリシー〉 健康科学大学では、関連領域の専門家とともに新たな実践を創造し、地域の医療・保健・福祉に貢献できる優れた人材を社会に送り出すため、次のような資質と能力を備えた学生に学位を授与する。 (1) 生命に対する深い理解や人権の尊重に立脚した高い倫理性と豊かな人間性を身につけている。 (2) 多彩な科目の履修を通じて、幅広い教養と専門的な知識・技術力を身につけている。 (3) 医療・保健・福祉の関連職種と連携して実践できる能力を身につけている。 (4) 一人の社会人・職業人として様々な課題に適切に対応できる社会人基礎力（ジェネリックスキル）を身につけている。 (5) 社会の変化や技術の進展に的確に対応するために自己研鑽できる能力を備えている。 〈理学療法学科ディプロマポリシー〉 (1) 理学療法士に必要な知識と技能を修得している。 (2) 広い視野と未知への探求心を身につけている。 (3) 高い倫理観と責任感、患者に対する思いやりと奉仕の精神を身につけている。 (4) チーム医療に必要なコミュニケーション能力と協調性を身につけている。 (5) 根拠に基づいた医療の実践に必要な論理的思考力を修得している。 (6) 自ら問題を提起し、解決する力を身につけている。 〈作業療法学科ディプロマポリシー〉 (1) 生命と人権の尊重を基本とした、豊かな人間性と高い倫理性を身につけている。 (2) 幅広い教養と作業療法学の基本的知識と技能を身につけている。 (3) 関係職種と連携できる実践能力を身につけている。 〈福祉心理学科ディプロマポリシー〉 豊かな人間観をもち、一人ひとりの尊厳を高められるような関わりができるとともに、人と人をつなぎ、共に社会を作ることができる力量を身につけている。 ●社会福祉・精神保健福祉コース ソーシャルワーカーとして必要な理論、知識、技術を総合的に理解し、福祉サービス利用者の立場に立った視点、援助スキルを修得している。

●発達臨床心理コース

生涯発達に課題や困難を抱える人々が生きやすい人間社会の構築に寄与できる、心理学の高度な専門知識と技術を修得している。

〈看護学科ディプロマポリシー〉

- (1) 社会や人間・自然に関する知識と理解をもち、人の尊厳と生命を尊重する倫理性を身につけている。
- (2) 社会生活と職業生活に必要な汎用的技能と態度・志向性をもち、問題解決のため、相手の立場を共感的に理解できるコミュニケーション能力を身につけている。
- (3) 看護理論に基づいて看護過程が展開できる能力を修得している。
- (4) 人々の健康と生活の質を高める看護実践ができる基礎的能力を修得している。
- (5) 保健医療福祉分野において、関係する人々と連携し、問題解決できる基礎的能力を身につけている。
- (6) 看護専門職として継続して学習・研究できる基礎的資質と能力を有し、看護専門職の価値観・専門性を生涯にわたり発展させようとする意欲をもっている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：学生便覧及び大学ホームページにて公表)

http://www.kenkoudai.ac.jp/modules/about/index.php?content_id=24

(概要)

〈健康科学大学カリキュラムポリシー〉

健康科学大学では、幅広い教養、豊かな人間性、高い倫理性に立脚して専門的な知識と技術を修得するため、次のような方針に基づいてカリキュラムを編成している。

- (1) 本学の教育理念と目標を実現するため、多彩な科目を開講する。
- (2) 修学に必要な知識と能力を確実に身につけるため、初年次教育に力を入れる。
- (3) 幅広い教養を身につけるため、「総合基礎科目領域」(健康科学部)・「基本教育科目」(看護学部)を充実させる。
- (4) 関連職種と連携できる力を身につけるため、「専門基礎科目群」(健康科学部)・「専門教育関連科目」(看護学部)を充実させる。
- (5) 主体的に学ぶ力を養うため、全学年で少人数編成による演習科目を設ける。
- (6) 専門的な知識と技術力を確実にかつ幅広く身につけるため、「専門科目群」(健康科学部)・「専門教育科目」(看護学部)を充実させる。

〈理学療法学科カリキュラムポリシー〉

- (1) 理学療法士に必要な知識と技能を養うため、初年次から専門科目領域の科目を順次配当する。
- (2) 幅広い教養・視野、倫理観、思いやりと奉仕の精神を養うため、総合基礎科目領域を充実させる。
- (3) チーム医療に必要なコミュニケーション力、協調性、柔軟性を養うため、総合基礎科目領域と専門科目領域の連携に力を入れ、グループ学修の機会を多く設ける。
- (4) 自ら問題を見出して解決する力、論理的思考力を養うため、少人数編成の演習・実習形式の科目を多く設ける。

〈作業療法学科カリキュラムポリシー〉

- (1) リハビリテーション専門職としてふさわしい豊かな人間性、専門的知識・技術の修得、関係職種と連携するための協調的実践力を培うための科目を配当する。
- (2) 初年時には科学的思考力、多様な価値観の受容力、深く人間について理解する共通科目を中心とした科目を配当する。
- (3) 2年次には、科学的根拠に基づいた作業療法技術を実践するうえで理論的基礎となる専門基礎科目を中心に配当する。
- (4) 3年次から4年次にかけては、これまでに修得した知識と技術を統合させ、リハビリテーション専門職として必要な、態度、資質、行動を育成するとともに、学内教育で臨床

実践能力の基礎を涵養するため学外臨床実習を設ける。

〈福祉心理学カリキュラムポリシー〉

常に時代に対応できる専門職の育成をめざし、社会福祉、精神保健福祉、心理といった専門分野だけでなく、人体の構造や仕組みなど幅広い基礎的な知識を修得できるようなカリキュラムを配置する。さらに高学年次には演習や実習を重視し、現場における実践力を高める。

●社会福祉コース

社会福祉士としての知識、技術、価値を高め、ソーシャルワークの視点を修得できるカリキュラム編成とする。

●精神保健福祉コース

社会福祉をベースに精神保健福祉士の理論と価値を学んだうえで、演習・実習科目を配置し、理論と実践の調和を学ぶことができるカリキュラム編成とする。

●発達臨床心理コース

基礎から応用に及ぶ幅広い心理学の知識を修め、「心理面接法」等の現場体験演習を設けて、実践的な心理援助技術の獲得も視野に入れた、カリキュラム編成とする。

〈看護学科カリキュラムポリシー〉

- (1) 4年間の教育を通して、社会生活と職業生活の基盤となる学士力を育む教養教育と、看護専門職者を育成する看護基礎教育に必要な教育課程を編成する。
- (2) 看護職者に求められる「豊かな人間力」を涵養するため、学士力を育む科目群を配置する。
- (3) 「専門的な知識・技術力」と「開かれた共創力」の基盤となる専門教育関連科目と専門教育科目の科目群を配置する。
- (4) 自己学習力の涵養と演習等を通じた態度教育の実現を目指し、教育課程が過密にならないように科目と教育内容を精選し、事前事後学習の時間を確保する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：学生便覧及び大学ホームページにて公表）

http://www.kenkoudai.ac.jp/modules/about/index.php?content_id=24

（概要）

〈健康科学大学アドミッションポリシー〉

健康科学大学では、豊かな福祉社会を支える医療・保健・福祉・心理の専門職を育成するため、次のような資質を備えた入学者を求めている。

- (1) 本学の建学の精神と教育目標を十分に理解している人。
- (2) 本学で学ぶために必要な基礎学力を身につけている人。
- (3) 向学心に富み、自ら考え、行動する意欲がある人。
- (4) 支援する人々の幸せを自分の幸せと感ずることができる人。
- (5) 他人と良好なコミュニケーションがとれ、協調しながら行動できる人。

〈理学療法学科アドミッションポリシー〉

- (1) 理学療法に関心があり、知識や技能を修得したい人。
- (2) 自ら学ぶ意欲のある人。
- (3) 医療を通じて社会に貢献する情熱のある人。
- (4) 他人の心を思いやることができる人。

〈作業療法学科アドミッションポリシー〉

- (1) 作業療法について積極的に学ぶ意欲があり、未知の分野への探求心に富んだ人。
- (2) 「なぜ?」、「どうして?」という疑問を持って、主体的に学ぶことができる人。
- (3) 豊かな感受性と思いやりの心を持ち、他人のつらさや喜びに共感できる人。

(4) 自分の考えを伝え、話をよく聞くことができ、協調しながら行動できる人。

〈福祉心理学科アドミッションポリシー〉

- (1) さまざまな分野に関心を持ち、柔軟で主体的に学ぶことのできる人。
- (2) 人間が好きで社会福祉学と心理学に興味や関心がある人。
- (3) 豊かな情緒と感性を持ち、人と自分自身に誠実な人。
- (4) 福祉や心理の分野において活躍したいという情熱にあふれている人。

〈看護学科アドミッションポリシー〉

- (1) 看護学分野に対する強い興味と関心を持ち、看護師に対する高い職業意識を有している。
- (2) 学部教育及び国家試験の受験資格の取得並びに国家試験の合格に向けての学習意欲を有している。
- (3) 高等学校で履修した主要科目について、教科書レベルの基本的な知識を有し、基礎的な課題を解くことができる。
- (4) 自分の考えを口頭や文章により適切に表現することができ、他者に対して的確に伝えることができる。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学ホームページにて公表している。

http://www.kenkoudai.ac.jp/modules/about/index.php?content_id=3

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
健康科学部	—	16人	8人	13人	11人	4人	52人
看護学部	—	9人	5人	2人	5人	6人	27人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			38人				38人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：大学ホームページにて公表					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>教員の授業内容・方法を改善・向上するため、教育研究活動に関する外部講師を招聘した研修や相互研修を企画・実施している（看護学部）。</p> <p>また、学生による授業評価アンケートを実施し、教員はその結果を受けて授業改善に役立てている。</p> <p>シラバスの作成に際しては、学内での統一的基準を定めた作成要領を作成し全教員に示すことで、授業科目の教育目標や予復習方法、成績評価方法等について客観性及び厳格性の確保を図っている。</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
健康科学部	220人	146人	66.4%	890人	678人	76.2%	5人	1人
看護学部	80人	62人	77.5%	320人	265人	82.8%	0人	0人
合計	300人	208人	69.3%	1210人	943人	77.9%	5人	1人

(備考)
※編入学は、福祉心理学科3年次のみ実施。

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
健康科学部	184人 (100%)	4人 (%)	160人 (%)	13人 (%)
看護学部	—人 (100%)	—人 (%)	—人 (%)	—人 (%)
合計	184人 (100%)	4人 (%)	160人 (%)	13人 (%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)
進学先：大学院(心理系・福祉系)
就職先：医療・保健衛生、社会保健・社会福祉
※その他は、主に国家資格取得準備の者

(備考)
※看護学部は2020年3月に1期生が卒業となるため、今年度の記載は無し。

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
健康科学部	198人 (100%)	164人 (82.8%)	13人 (6.6%)	20人 (10.1%)	1人 (0.5%)
看護学部	—人 (100%)	—人 (%)	—人 (%)	—人 (%)	—人 (%)
合計	198人 (100%)	164人 (82.8%)	13人 (6.6%)	20人 (10.1%)	1人 (0.5%)

(備考)
※看護学部は2020年3月に1期生が卒業となるため、今回は記載無し。
※その他は、休学者(留年者数には含まず)。

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

・授業計画（シラバス）の作成過程

学内ファカルティ・ディベロップメント委員会（以下、「FD 委員会」）により、シラバス様式および作成要領が整備されるとともに、シラバス作成に伴う説明会が実施され、各担当教員によりシラバスの作成が図られる。各授業科目担当教員により作成・提出されたシラバスは、学内第三者からなる「シラバスチェック担当者」により、以下の観点から内容のチェックを行い、必要に応じ修正が行われる。また、これら作成作業と並行して、FD 委員会による作成の進捗状況管理が行われる。

- a カリキュラムポリシーに基づき作成されているか
- b 各種養成学校指定申請内容に基づき作成されているか
- c 作成要領に沿って作成されているか

これらの過程を経て、最終的に学長の決裁のうえ、学生等に対し公表する。

・授業計画の作成・公表時期

- ① FD 委員会による様式・作成要領の整備（11月中旬まで）
- ② FD 委員会による作成に伴う説明会実施および様式・作成要領の配布（11月中旬）
- ③ 各授業担当教員によるシラバス原稿の提出（11月中旬から12月下旬まで）
- ④ シラバスチェック担当者による提出されたシラバス原稿のチェック（1月上旬から2月下旬）
- ⑤ 完成（学長決裁）（3月）
- ⑥ 公表（4月初旬）

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
<p>成績評価と単位認定は「健康科学大学学則」14～16条、「健康科学大学健康科学部履修規程」及び「健康科学大学看護学部履修規程」6条、30条等に基づき、適切に行われている。具体的には、S(100-90点)・A(89-80点)・B(79-70点)・C(69-60点)・D(59点以下)の5段階で成績を評価し、C以上を合格としている。また、「Grade Point Average(GPA)」を導入することにより、学生が学修状況を自覚して努力するようになり、教員が学生の学修支援を効果的に行えるようになることが期待できる。なお、GP(Grade Point)は、成績評価のSを4.0、Aを3.0、Bを2.0、Cを1.0、Dを0.0、(看護学部のみ)Kを0.0としている。また、評価方法としては、小テスト、定期試験、レポート、実技試験等があり、これらに基づき成績が評価され、単位が認定される。教員は自分が担当する授業科目の評価方法を決め、責任を持って評価を行い、単位を認定している。成績評価方法はシラバスに明示し、授業内でも学生に周知している。</p> <p>卒業の認定については学位授与方針(ディプロマポリシー)を明確に定め、「健康科学大学学則」第20条の2、「健康科学大学健康科学部履修規程」及び「健康科学大学看護学部履修規程」第36条に規定されており、卒業要件(「健康科学大学学則」第20条、「健康科学大学健康科学部履修規程」及び「健康科学大学看護学部履修規程」第35条に規定されている①休学期間を除き4年以上の在学年数を経ていること、②教育課程の所要単位を修めていること、③納入すべき学費が全て完納されていること)を全て満たした者に対して学長が認定している。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
健康科学部	理学療法学科	130 単位	有・無	48 単位
	作業療法学科	130 単位	有・無	48 単位
	福祉心理学科	130 単位	有・無	48 単位
看護学部	看護学科	124 単位	有・無	39 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		2020年度から実施できるようにGPA値を活用した進級判定基準を学内で検討し、整備を進めている。		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法:学生生活満足度調査を毎年実施し、大学ホームページにて公表。 http://www.kenkoudai.ac.jp/modules/about/index.php?content_id=62		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法: 公表方法: 大学ホームページにて公表。 (健康科学部) http://www.kenkoudai.ac.jp/modules/about/index.php?content_id=13 (看護学部) http://www.kenkoudai.ac.jp/modules/nursing_therapy/index.php?content_id=5</p>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
健康科学部	理学療法学科	900,000 円	300,000 円	400,000 円	施設費 200,000 円 実験実習費 200,000 円
	作業療法学科	900,000 円	300,000 円	400,000 円	施設費 200,000 円 実験実習費 200,000 円
	福祉心理学科	750,000 円	100,000 円	230,000 円	施設費 200,000 円 実験実習費 30,000 円
看護学部	看護学科	900,000 円	300,000 円	600,000 円	施設費 300,000 円 実験実習費 300,000 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none">・オフィスアワー 各教員のオフィスアワーは原則としてシラバスへの掲載（あるいは掲示板）により学生に周知されており、相談・質問ができるよう研究室を出入りしやすくし、自習スペースとしても開放している。・クラス担任制 1・2年次の学生を対象にクラスを編成し担任・副担任を配置している。クラス担任は日常的に学生の修学・生活の相談に応じるとともに、学生の意見も収集している。・出欠管理システム 授業の出席状況を把握し、欠席の多い学生は、退学・休学につながるケースが多いので、欠席が多い学生を早期に抽出し、面談等を実施することで問題解決を図り、授業支援及び退学・休学を未然に防ぐことに努めている。
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none">・就職講習会 学年ごとに合わせたテーマでガイダンス（例えば、2年生には「マナー講座」、3年生には「就職ガイダンス」）を開催し、外部講師を交えた指導を行っている。 また、専門職としての意識を高めるため、健康科学部では卒業生による講話などを聞く機会を設け、4年次には「就職ガイダンス」に加えて、夏季休暇中に「就職講演会」・「求人説明会」を毎年開催している。・資料コーナーの整備 学生が自由に資料を閲覧できるように資料コーナーを整備している。健康科学部では既卒者の就職試験内容のデータを保管し、在学生が就職試験対策として活用できるよう随時閲覧可能としている。
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none">・学生相談室 学生が大学生活で抱えるさまざまな問題（学習・成績、対人関係、経済面のことなど）に対し、守秘義務を守りながら相談に乗り、解決に向けて共に大学生活をより充実できるよう専任のスタッフが対応している。・保健室 各キャンパスの保健室には、保健師が常駐し怪我や病気へのケアだけでなく、学生の心身の健康管理や健康相談を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大学ホームページで公表。

http://www.kenkoudai.ac.jp/modules/about/index.php?content_id=24